



荒川中だより

青い雲

教育目標 「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

令和7年度 第3号
令和7年6月13日発行
村上市立荒川中学校

下越地区中学校体育大会を迎えて

校長 西村 諭

6月6日から下越地区中学校体育大会が始まりました。本大会は全国大会へとつながるものであり、選手にとっては夢の舞台となります。

しかし、近年の生徒数減少に伴い、部員数も少なくなり、他の中学校と合同チームを作る種目があります。少人数による練習の工夫や、合同練習のための移動など、苦勞も多々あったと思います。このような環境下ではありましたが、各部とも3年生を中心にチームワークを大切にし、技術の向上に努めてきました。大会では、最後までベストを尽くして戦ってもらいたいです。

6月2日には、選手激励会を行いました（裏面に写真を掲載しました）。応援委員会による企画・運営です。全校生徒が、大会に出場する部活動と地域スポーツクラブの選手を激励しました。また、各部の代表選手が決意表明を、陸上競技部の蟹井奏志さんが選手宣誓を行いました。いずれも力強い言葉であり、大変感動しました。

選手に対して、次のメッセージを送りました。



「選手宣誓の様子」

この大会を目標に、努力を積み重ねてきたことでしょうか。どうか、これまでの練習の成果を存分に発揮し、悔いのない戦いをしてほしいと願います。

大会なので、当然勝ち負けが伴います。勝てばうれしい、負ければ悔しい思いをします。しかも、勝負は一瞬です。しかし、結果はその瞬間だけのものであり、努力は無限であることも、私たちは知っています。何事も継続して取り組むことに意義があり、そこにたどり着くまでの過程が何よりも大切であることを学んできました。

選手の皆さん、自分の手を見てください。そして、思い出しましょう。みなさんは、その手で何度も素振りをしたり、ボールを投げたり、腕を振って走ったりと、数え切れないほどの努力を積み重ねてきました。また、その手は、上手くできたときに仲間とハイタッチをしたり、「がんばって」と握手をしてもらったり、色々な人の願いを受け止めてきた手でもあります。大会で苦しくなったら、自分の手を見て、これまで努力してきたこと、一緒に取り組んできたチームメイト、指導していただいた先生方、そしてあなたを支えてくれた家族などを思い出して、頑張ってください。

「ベストを尽くせば、誇りに思える」と、ある陸上選手が述べていました。最善を尽くせば、どのような結果であれ、自分自身に誇りをもつことができます。皆さんの全力プレーを期待しています。

なお、激励会当日は、授業参観も行いました。平日にもかかわらず70名を超える保護者の皆様からお越しいただきました。ありがとうございました。